

施策番号	1404		
施策名	生活しやすい社会環境の整備		
概要	ユニバーサルデザインを総合的に推進することにより、すべての人が個人として尊重され、その能力を最大限に発揮し、社会参加できる社会環境を整備する。		
担当局・部室	保健福祉局・障害保健福祉推進室	共管局・部室	都市計画局・建築指導部
上位政策	14 障害者福祉		
施策に関係する 主な分野別計画等	京都市みやこユニバーサルデザイン推進指針		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		27年度	28年度	29年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1	市民向け印刷物の情報保障配慮率(%)	b	b	66.4	67.3	77.6	86.7%	c	1.00
2	バリアフリー優良建築物の件数(件)	c	b	402	506	500	101.2%	a	1.00
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	b	客観指標総合評価				b	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		27年度	28年度	29年度回答					
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない	有効回答 者数
1	バリアフリー（高齢者や障害のあるひとが社会生活をしていくうえでの障壁（バリア）を除去し、ハンディキャップなく生活できるようにすること）などの生活しやすい社会環境の整備が進み、暮らしやすいまちになっている。	c	c	25	188	191	74	42	520
				4.8%	36.2%	36.7%	14.2%	8.1%	
2	-	-	-						
3	-	-	-						
4	-	-	-						
5	-	-	-						
		c	c	市民生活実感調査総合評価					c

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

C	施策の目的がそこそこ達成されている					28 年度	C
	重み付け	☐ 客観指標	b	☒ 市民の実感	c		
(重み付けの理由) ユニバーサルデザインの視点に基づく社会環境を整備することにより、全ての市民が生活しやすくなる ことが重要であり、その度合いを図る市民生活実感調査の方に重みを置く。						27 年度	C
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・「どちらとも言えない」の回答が最も多く、全体の3割を超えていることから、バリアフリーやユニバー サルデザインの整備が整っているという実感が広がっていないと考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		29年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		28年度 決算額	29年度 予算額		
1	みやこユニバーサルデザインの推進	19,210	17,067	普通	保健福祉局
2	生活保護適正化推進事業	932,205	916,379		保健福祉局
3	いきいきハウジングリフォーム(京都市重度障害者住宅環境整備費助成事業)	32,580	28,802	悪い	保健福祉局
4	重度障害者タクシー料金助成事業	217,119	220,946	良い	保健福祉局
5	重度身体障害者緊急通報システム貸与事業	5,480	5,691	普通	保健福祉局
6	身体障害者福祉電話設置維持事業	2,206	2,483	普通	保健福祉局
7	生活保護自立支援事業	1,517,577	1,521,308	普通	保健福祉局
8	生活困窮者に対する相談支援体制の充実強化	44,868	45,091	かなり良い	保健福祉局
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

・みやこユニバーサルデザイン推進主任連絡会議の開催や職員研修を通じて、庁内の各事務事業におけるユニバーサルデザインの取組を一層推進し、市民向け印刷物の情報保障配慮をはじめとした生活しやすい社会環境を整備していく。

・また、人にやさしいサービスマインド宣言、みやこユニバーサルデザイン賞、ユニバーサル上映補助、ユニバーサルデザイン消費者啓発等の取組や積極的な情報発信を通じて、広く市民にユニバーサルデザインが普及するよう取り組む。

・さらに、みやこユニバーサルデザイン優良建築物顕彰制度等の取組により、引き続き、ひとにやさしい建築物の普及啓発を図る。

施策名	1404	生活しやすい社会環境の整備					
指標名	市民向け印刷物の情報保障配慮率（％）						
担当課	障害保健福祉推進室		連絡先	2 2 2－4 1 6 1			
1 指標の説明							
本市が発行する市民向けのパンフレット、リーフレット等における情報保障の配慮がされている割合							
2 指標の意味							
障害のある方も一般市民と同様に合理的な配慮がなされ、生活しやすい社会環境が整備されている進捗を示す指標			3 算出方法・出典等				
			算出方法：各局区等から10,000部以上発行している広報印刷物において、配色の工夫や外国語、点字版の作成等の対象者に応じた何らかの配慮を行った件数の割合（年度末に確認した実績に基づく。） 出典：事業担当課調べ				
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度	
数値	66.4	67.3	0.9%増	77.6	平成32年度末までに100%の目標達成のために当該年度達成すべき数値（累計）（毎年度5.6%増）	86.7%	
	全国順位	中長期目標			備考		
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値		100	32年度	67.3%			京プラン実施計画 第2ステージ
5 評価基準							
最新数値の目標値に対する達成状況が a：100%以上 b：90%以上～100%未満 c：80%以上～90%未満 d：70%以上～80%未満 e：70%未満			6 基準説明				
			京プラン実施計画第2ステージに掲げた各年度に達成すべき目標値100%に対する達成状況について、90%以上をaとし、以下10%刻みで基準を設定した。				
7 評価結果							
			27	28	29		
			b	b	c		

指標名	バリアフリー優良建築物の件数（件）						
担当課	建築審査課		連絡先	2 2 2－3 6 1 6			
1 指標の説明							
バリアフリー化された建築物（施設）の件数							
2 指標の意味							
「ひとにやさしいまち」に向けた進み具合を示す指標			3 算出方法・出典等				
			算出方法：京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に基づく検査済証交付件数 出典：事業担当課調べ				
4 数値							
	前回数値	最新数値	推移	目標値			
	27年度	28年度		数値	根拠	達成度	
数値	402	506	104件増	500	過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物の件数を推計	101.2%	
	全国順位	中長期目標			備考	23年度 357件 24年度 434件 25年度 497件 26年度 498件 27年度 402件 28年度 506件 平均 449件	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値		500	32年度	101.2%			・過去の建築確認申請の動向等から、条例対象となる建築物の件数を推計
5 評価基準							
最新数値の目標値に対する達成度が a：90%以上 b：80%以上90%未満 c：70%以上80%未満 d：60%以上70%未満 e：60%未満			6 基準説明				
			これまでのバリアフリー条例に基づく検査済証交付件数の推移を基に、評価基準を設定。				
7 評価結果							
			27	28	29		
			c	b	a		